

第二次大戦で破壊されたが石材を再利用し復活

リボルノ灯台（イタリア）

この要塞のように重厚な灯台は、イタリアトスカナ州に位置する港町リボルノに立っている。地中海地域において重要な拠点として古くから栄えた場所で、斜塔で有名なピサに隣接し、フィレンツェまでも足を伸ばせる距離なので、現在は大型クルーズ船の人気寄港地だ。高さが53mもあるこの灯台をこのアングルで撮影できたのは大型船に乗船した恩恵。

この灯台が建てられたのは1303年。彫刻家であり建築家のジョバンニ・ピサーノと石工職人たちが中心となって進めた。石材は近くのサンジュリアーノ洞窟から採掘したという。灯台は11層になっており、内部には灯台守の居住スペース

や貯蔵庫がある。当初はオイルランプ、その後アセチレンガスにより光を灯し、電化されたのは19世紀の終わり。光源には変遷があるが、塔自体は600年以上も変わらぬ姿をしていた。

しかし第二次世界大戦中、ドイツ軍により爆弾を仕掛けられ崩壊する。その残骸を前にリボルノの住民は新しい灯台ではなく、元の姿の灯台を強く求めた。再建のための資金が集められ、鉄筋コンクリート造りとしつつも、外壁には石材を再利用し、足りない部分は新たに洞窟から採石。10年後の1954年ようやく元の姿が蘇った。現在はイタリアを代表する歴史的灯台の1つとして文化遺産となっている。

(つづく)



リボルノ灯台